

第17回安佐南区区民祭

11/4 安佐南区文化センター

安佐南区の酪農家
牛乳・乳製品の販売促進



第十七回安佐南区区民祭・農業祭が開催され、地元酪農家らが出店し、牛乳・乳製品の消費拡大のための牛乳・乳製品の販売推進にあたった。

参加した酪農家は栗原徹さん・山根淳子さん・佐川イサノさんの三名。広酪からはミルクファームHARUから藏崎哲治店長が駆け付け、牛乳、乳製品、手作りアイスなどを販売し、リピーターもあって多くの来場者に消費拡大を訴えることが出来た。

あきたかた酪農振興会

11/7 東広島市

最先端の
搾乳ロボットに驚き

あきたかた酪農振興会(泉秀利会長)の会員他十六名は、東広島市の広島大学生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターと(有)トムミルクファームを視察した。

広島大学では、搾乳ロボットに興味を魅かれ、参加者からは多くの質問が集中した。

また、(有)トムミルクファームでは場長からの説明を聞き、搾乳にあたっては乳房炎にならないようにストレスを抑えるための管理内容、同牧場が住宅地に隣接する環境にあり、かつ、

アイスクリーム等の直営販売もされる現状において、周囲の環境美化・衛生対策にも大変に気配り、努力されている話をうかがった。



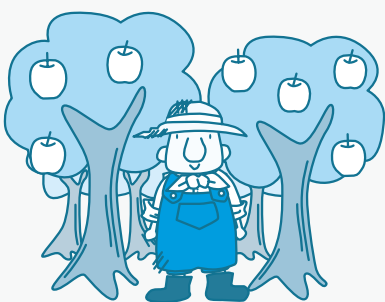
千代田町酪農協議会

11/10 北広島町

酪農とりんごの
複合経営で収入確保
夫婦仲の良さが
経営を支える

千代田町酪農協議会(柿原徳則会長)は、岡崎文司牧場(北広島町・旧芸北町)を視察し、会員他六名が参加した。同牧場は、酪農経営と果樹栽培(リンゴ)の複合経営を実践され、収入確保と経営の安定を図られている。

岡崎さんからは、特にリンゴの袋掛けは四万五千袋にも及び、奥さん一人にこの作業の負担がかかることも時折あり、事業の両立が難しい面があるとの苦労話も聞かされる一方で、夫婦で仲良く頑張れる事が生きがいとも話され、微笑ましく感じた。



広酪西部ミルク会

11/15 三原市・山陽乳業(株)

酪農生産者の乳業工場
子会社 山陽乳業(株)を視察



広酪西部ミルク会(砂子靖子会長)は、広酪の子会社・山陽乳業(株)に赴き、牛乳・乳製品の製造過程等を視察した。

同社では、お客様相談係の森田博氏から「当社は酪農生産者で成り立っている会社であり、酪農生産者の『夢』と『情熱』、そして『希望』をつなぐ掛橋となって、消費者に安全・安心で、より良い確かな商品を消費者に届ける

ことを基本理念としています」と説明を受けた。

工場に入って牛乳や果汁飲料のラインを見学したところ、HACCP認証工場でもあり、整理整頓が行き届く環境で、従業員の皆さんがテキパキと対応され、商品製造に厳しくチェックされる様子を確認することが出来た。

その後、「みはらし温泉」で日頃の疲れを癒し、会員相互の情報交換と親睦を図った。



双楽会

11/8 三次市親水公園

グラウンドゴルフで会員交流

さあ、ホールインワン
狙うで~!!



双楽会(温泉川寛明会長)は、会員二十七名が参加して、恒例のグラウンドゴルフ大会を開催した。

温泉川会長は「酪農情勢は厳しい状況にありますが、苦しい時こそ地域の団結が必要です。今日は楽しんで頑張りましょう」と挨拶し、プレーに入った。

優勝は土井和彦さん(元広酪職員)で、中田幸子さんがホールインワン賞に輝いた。会場を移し、「香蘭」で表彰式と親睦会を行い、楽しい一日を過ごされた。

広酪西部地域組合員連絡協議会

11/20 府中市上下町

受卵牛の飼養管理が重要!!

受精卵移植で 経営を営む現場を視察



広酪西部地域組合員連絡協議会(岡崎博昭会長)は、受精卵移植技術の向上を目指して、(有)竜王産業(府中市上下町)を視察し、会員十二名が参加した。

一行は牧場内のタイストール・フリーバンの併用牛舎を見学し、その後、広酪東部事業所の会議室に会場を移し、竜王産業の丁場克孝氏から「ホルスタインの経産牛における受精卵移植の向上」と題して講義を受けた。丁場氏は過去二十年間、受精卵移植に力を入れ、千四百卵の移植を行い、当初は受胎率が低下したため、様々なデータと技術を学んだ結果、

受卵牛の飼養管理が重要であると説明された。このための飼養設計では、毎月三回の乳成分検査結果を参考とさせ、乳脂肪分三・八%、無脂乳固形分八・六%、MUN値十〜十四mg/dlに保つための工夫が行われていた。また、

移植時は子宮を傷つけないことに気を配られ、子宮深部注入をされ、受胎率の悪い牛には、追い移植(ホルスタインAI後に♂選別卵移植)を行うなどの技術が紹介された。会員は皆、丁場氏の受精卵移植事業に研鑽されている事に驚かれ、今後の受精卵移植に大きな知識を習得し、満足のいく研修会となった。



庄原市酪農連絡協議会

11/20 庄原市役所

酪農施策の継続を要望 補助制度を活用し酪農経営の 発展に結び付けたい



竹内議長(右)に要望書を手交する
和田慎吾副会長(左)



左から向田福夫副会長、和田慎吾副会長、滝口市長、林会長、
竹ノ内寛治主任(広酪)

庄原市酪農連絡協議会(林智行会長)は、庄原市行政に対する市内酪農家への補助施策の充実等を求める要請活動を行い、滝口季彦庄原市長と竹内光義市議会議長を表敬訪問し、陳情要請を行った。

林会長から市長に対して昨今の酪農情勢を伝え、要請書を手交すると共に、「これまでの補助制度の効果がなかなか経営に結び付かない中で、今後は補助制度に対する検証も必要。今後補助制度の継続とこれを活用した成果に結び付けていきたい」との意欲を伝え、任期満了を迎える市長からは、次期市長にはこれらの要望事項を引き継ぎたいとの回答を得た。

三原市酪農振興協議会

飼料イネの価格は？

11/30 安芸高田市

企業秘密

豊富な育成牛確保に関心



三原市酪農振興協議会(新舎和久会長 会員九名)は、飼料イネ(たちすずか)を給与される西川博牧場(安芸高田市甲田町)を視察した。

参加者らは、畜舎を見学し、家族三人の労力で、搾乳牛五十五頭・乾乳牛十五頭、加えて、育成牛が五十頭と、特に後継牛確保に重点を置いた経営に関心を寄せられていた。

西川さんご夫婦を囲んでは参加された玉川、坂根両夫婦らが日常の牛飼い同士、和気藹々の様子で会話が盛り上がり西川さんの温かい人柄がうかがわれた。

また、搾乳を終えられたばかりの息子さんには、新舎会長らが餌の給与や管理、繁殖状況や作業方法などを質問され、これに気さくに応えられていた。

西川さんは大変ユーモアに富んだ方で「法人からの飼料イネの購入価格は？」の質問に「企業秘密」と愛嬌を交えながらの回答に会員らは爆笑。

また、牛舎の上方にある堆肥舎を見学し、きのこやコーヒー粕を混ぜるなど試行錯誤で完成した堆肥は、良質堆肥として野菜等の生産法人に大変好評であると聞いた。

その後、神楽門前湯治村(美土里町)に場所を移して会食を行い、新舎会長の挨拶に続いて、寺道弘生所長(西部事業所)の乾杯発声で開宴し、今日の視察に関する話題を中心に有意義な意見交換を行った。

三次市酪農振興会

“たちすずか”

11/30 岡山県津山市

香りよく、食い込み良好!!

岡山のWCS利用農家を視察



(甲本夫妻を囲んでの記念撮影)

三次市酪農振興会(橋本洋資会長)は、WCS利用農家の視察研修会を開催し、会員八名が参加した。

バスの中では、西平優樹さんから牧場再開に向けた近況報告や、檜高侑祐さんからの全日本ホルスタインB&Wショウの報告、今後の講演会の開催内容等を協議しながら時間を有意義に使用して移動した。

おかやま酪農業協同組合の高山勝好氏からは、同組合の概要と飼料イネ情勢について説明して頂き、岡山県では八団体が飼料イネ生産に携わっており、二十四年の作付面積は三百六十四ヘクタールで、収量の九割を酪農家で利用され、その品種は「ホシアオバ」、「たちすずか」、「たちあやか」の三品種であった。

WCSを利用する甲本牧場(津山市)では、平成十七年からWCSを利用され、十二月から五月までの六ヶ月間使用。経産牛一日一頭当たり五〜七kg給与。WCSの給与開始当初は品質が悪かったが、技術が進み、現状では高品質で安定していると聞いた。給与されていたWCS(たちすずか)を見せてもらうと、香りが良く、牛の食い込みも良好とのことだった。

会員らは飼料稲の利用に関して参考になった様子であった。

酪農所得アップを

目指して!!



福山地方酪農協議会(山本芳紀会長、会員九名)は、平成二十四年度を締めくくる年末研修会を開催した。

研修では、吉川圭子主査(東部畜産事務所)による飼料コスト削減を意識した飼料稲WCSの生産と利用について、飼料稲の品種・成分比較、給与のポイントなど耕畜連携地区の現状を説明された。また、奥原順三主任からは酪農家への受精卵移植の取り組みを呼びかけられた。

研修会終了後は親睦会に移り、山本会長の挨拶では「飼料高騰など依然厳しい酪農情勢ではありますが、来年が良い年になることを願って頑張らしましょう」と述べ、中山篤志課長(広酪事業推進課)は生乳生産状況に加えて雌雄判別精液の利用を紹介し、生乳生産への協力を呼びかけた。

市川貴英所長代理(全酪連三次駐在員事務所)は、飼料情勢、乾草の動向などについて説明され、樽好美子所長(広酪東部事業所)の乾杯発声で会員・関係機関を含めた親睦交流を行った。

「尾道松江道」開通間近 「酪農」発信のヒントを求めて



(医光寺の山門前で)

高野町酪農組合(向田福夫組合長)は、例年実施している酪農視察研修を家畜防疫への配慮から見送り、今回は、紅葉まっさかりの津和野方面に親睦旅行(一泊二日)した。参加者は七名。

現在、高野町は尾道松江道の開通を間近に控え、「道の駅たかの」がオープンする運びとなり、「酪農家としてどのように参画するか」を探るヒントを求めて、旅行道中の全ての道の駅に立ち寄った。残念ながら、何処も同じようなお土産物。何れもドングリの背比べといった感じで、土産物を買うだけの結果となった。

一行は、三瓶小豆原埋没林公園で、地中深くに幾千年の時を経て目覚める埋没巨木を目の当たりにして、鬱蒼たる原始の森が三瓶山の噴火による火砕流や土石流で一瞬にして埋没する凄まじさを想像した。

医光寺では裏山を利用した「雪舟庭園」、津和野八景の一つ「天領の里」春秋峡の山峡豊かな自然の中に壮大な人口造形「堀庭園」にて紅葉を觀賞し、歴史のまち「山陰の小京都」津和野の町では掘割を悠々と泳ぐ鯉の大きさにダイエットを勧める一幕もあり、高野町とは違った自然豊かな景観を楽しみ、改めて仲間の絆を深めることができた旅となった。

今回の旅行には、広酪事業推進課中山篤志課長が同行した。